

新たな官民連携と提案窓口 ～官民共創/toGからwithGへ～

2026年7月24日（金）
財政・変革局市政変革推進室
竹本 夢輝

官民連携のパラダイムシフト

～「民間に任せる」「民間を支える」から、「官民で創る」へ～

1

民間に任せる

仕様が決まった領域を、民間の効率性で担う。

2

民間を支える

補助・実証・規制緩和で民間活動を後押しする。

3

官民で創る

課題・役割・収益の計算式から一緒につくる。

「官民連携」から、その先の「官民共創」へ

～行政を「顧客」ではなく「仲間」に～

公民連携（最上位の概念）

従来の官民連携
to G・アウトソーシング型

官民共創
with G・パートナーシップ型

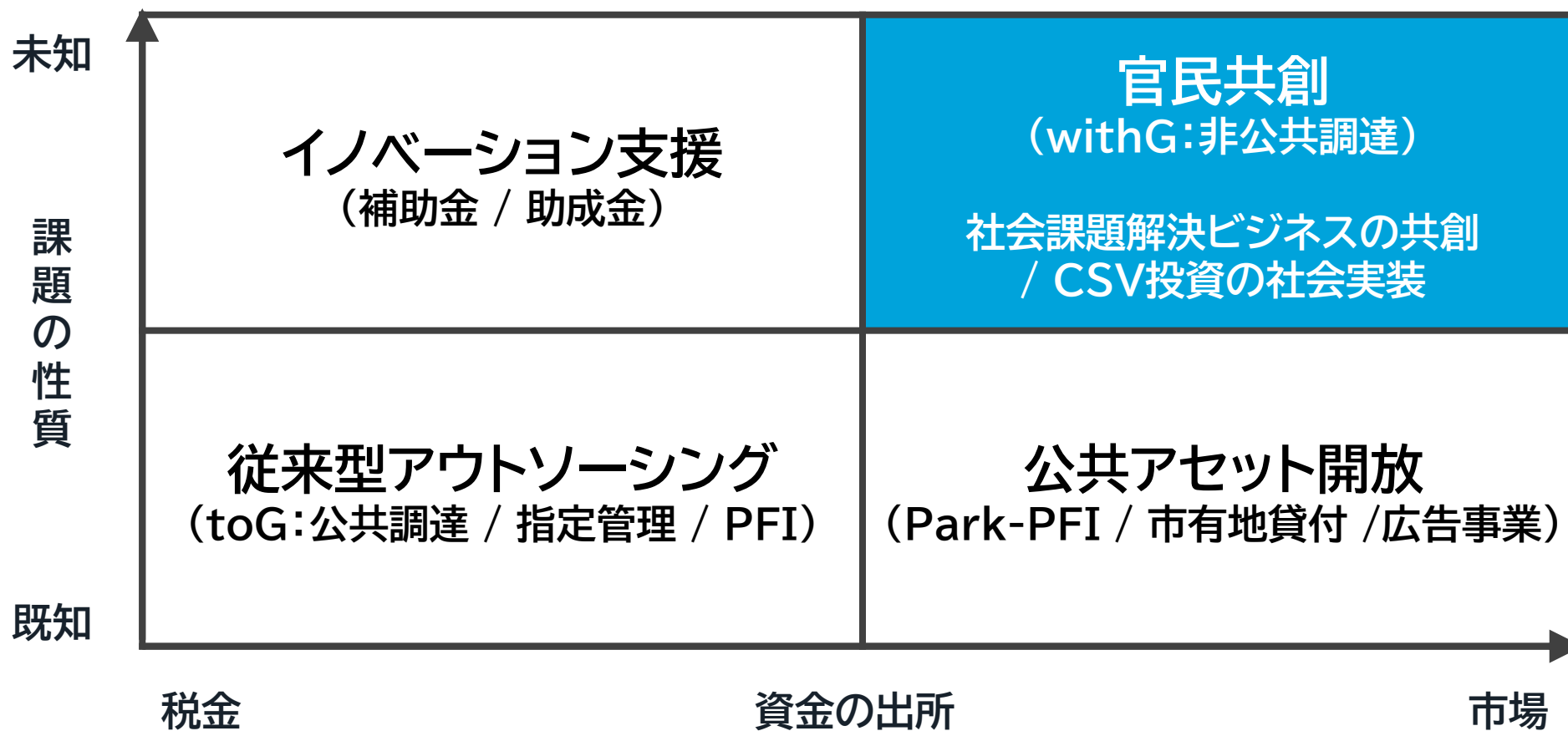
比較軸	官民連携（to G）	官民共創（with G）
関係性	発注者⇔受注者	対等なパートナー
目的・ゴール	行政が定めた仕様の達成	社会的価値と経済的価値の両立
お金の流れ	行政→民間（税金）	市場→民間（事業収益）



人口減少、税収減少、公共サービスの担い手不足。
それプラス、社会が複雑化して、市民ニーズが多様化する現代では、行政だけがすべての答えを持ってサービスを提供する従来型モデルは、もう限界。。。

北九州市が狙う「with G」領域

～狙いは「市場×未知の課題」にある、社会課題解決ビジネスの共創～



「with G」の事例（社会課題は事業機会になる）

～行政を「顧客」にせず、「仲間」として共に社会課題を解決し、市場から稼ぐ～

保険業界のCSV投資

行政との共創を通じて、社会課題を保険本業の「リスク低減」と「市場創出」に転換する、社会的価値と経済的価値を同時に生み出す投資行為。

保険会社が得る戦略的リターン

損害率を改善し続ける構造と、次世代市場における知見・顧客接点・先行ポジションを獲得する。それらが、中長期的な財務リターンを生む収益基盤と競争優位になる。



リスクの最小化（支出の抑制）

守り：既存市場を守る

交通安全・健康増進を支援
→行政コスト（救急・医療費）の削減



**官民双方に
経済的メリット！**

事故・疾病の減少→支払保険金の抑制
損害率の改善 →利益向上



実装・投資（新市場の創出）

攻め：新市場を創る

自動運転・ドローン等の新産業を支援
未知の領域のリスクを引き受け
「安心」を社会に実装

新保険・コンサル収入
次世代マーケットの先行者利益を確保

「官民共創窓口」の役割・機能

～官民双方の言語、文化を理解して話せる伴走者が在籍～



ワンストップ窓口

「たらい回しにしない」一元的な受付



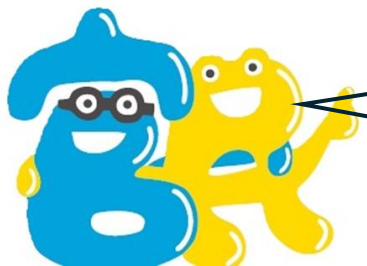
庁内調整・コーディネート

縦割りを越え、最適な担当部署を巻き込む



事業化に向けた共創

共創の種を芽吹かせるために一緒に汗をかく



窓口の運営は、行政人材と民間人材の混合チーム（共創人材）で行います！
官と民で対話が噛み合わない根本的な原因は、官と民の判断基準や価値観といった組織の「OS」が違うことにあります。その翻訳を共創人材がサポートします！

2つの提案アプローチ

～テーマ型とフリー型～

テーマ型（課題設定型）

市が明示する課題への提案

- ・ 明確な行政ニーズに最短アプローチ
- ・ 自社のアイデアやノウハウを具体課題にどう貢献できるか試せる
- ・ 本日から受付開始！

フリー型（自由提案型）

民間視点で発見した課題への自由提案

- ・ 独自の視点・課題発見力を最大限にアピール
- ・ 新市場の創造、未来の政策を動かす種に
- ・ 5月22日より受付中！

たとえば、こんなテーマが本日から並んでいます！

解決したい課題：遊休化した公的不動産の市場流通性を高める仕組みづくり

課題の背景

公共施設の最適化で今後増える遊休アセット。行政のノウハウ・リソース不足で公共アセットが眠ったまま。。。

お願いしたいこと

「売却するだけ」から「投資を呼び込む」発想へ。
企画段階から一緒に考えてほしい。

市が提供できること

アセット情報、所管局との調整、障壁となる規定等の見直し

入口と、今日からできる3つ

～共創ポータルを見る。ガイドラインを読む。共創提案をつくる。～

01

共創ポータルを見る



https://kitaq-partnership.com/kitaq_ccx/

02

ガイドラインを読む



https://www.city.kitakyushu.lg.jp/contents/092_00061.html

03

共創提案をつくる



<https://ttzk.graffer.jp/city-kitakyushu/smart-apply/surveys/3340192266781019644>



まずは「対話」から始めさせてください

ご清聴ありがとうございました。